

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 花尾 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

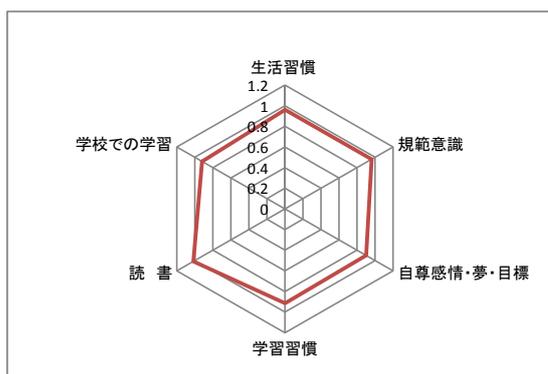
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・話すこと・聞くこと、書くこと、読むことのいずれも全国平均を上回っている。 ・読むことについては資料の内容を正しく捉え、選択肢の中から適切なものを選ぶことができる。 ・ローマ字を書いたり読んだりすることについて、全国平均を大きく下回っている。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	・ルール説明の表現について助言した内容として適切なものを選択する問題と、物語の登場人物の人物像を説明するために、根拠となる表現として適切なものを選択する問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・ひらがなで表記されたものをローマ字で書く問題と、ローマ字で表記されたものを正しく読む問題については正答率が低く、無回答率も高い。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・読むことについては全国平均を上回っているが、話すこと・聞くこと、書くことについては、全国平均を下回っている。 ・書くことについて無回答率は低いが、文字数や使う言葉などの条件を満たすように内容を整理して書いたり、理由や根拠を明確にして自分に考えを書いたりすることに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・複数の資料の内容を比べて読むことが必要な問題と、文章の内容を的確に押さえ、試料中の言葉を引用しながら「パン職人」について紹介したい内容をまとめて書く問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・資料を読み、話の展開に沿った質問を考え、自分の考えを書く問題について、無回答率は全国平均より低いが、正答率も低い。答えを書くことと努力しているものの、内容を整理して分かりやすい文章を書くことに課題がある。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	・どの領域も無解答が無く、数と計算、図形、数量関係について、正答率も全国平均を上回っている。 ・量と測定について正答率が全国平均を下回っている。単位量当たりの大きさの求め方の理解や基準量と比較量の関係の理解について課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・整数、分数、小数の四則計算の解き方を正しく理解することができており、正答率も高い。	
	努力が必要な問題	・1㎡当たりの人数を求める式を書く問題と、1を超える割合を百分率を用いた図に表す問題について課題がある。 ・三角形の底辺に対応する高さを選ぶ問題の正答率が低く、底辺と高さの関係の理解に課題がある。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	・無解答がほとんどなく、数と計算、数量関係は全国平均を上回っている。 ・量と測定では、単位量当たりの大きさを求めるために必要な情報を判断することに課題がある。図形では、円や四角形の性質を活用して解く問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・示された式の中の数値が表す意味を書く問題や式が何を計算しているのかの説明文を選ぶ問題について正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・図形の性質を利用し、正方形に内接する円をかくため中心の位置を選ぶ問題や、図形を構成する角の大きさを基準に、示された四角形を並べてできる図形を判断する問題に課題がある。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・読書好きな子どもが多く、1日当たりの読書時間も全国平均を上回っている。 ・家庭での学習習慣の定着に課題がある。宿題については、ほとんどの児童がきちんとしているが、自分で計画を立てて勉強している児童や1日当たり1時間以上勉強している児童の割合が全国平均を下回っている。特に、家で予習をしている児童の割合は、全国平均に比べ、17ポイント以上も低く、家庭での学習が主体的に行われていないことが大きな課題である。 ・学校の授業で、自分の考えを説明したり、書いたりすることは難しいと感じている児童の割合が高く、話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができていると感じている児童の割合が低く、表現力を身に付けるという視点に立った授業改善を進めていく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中に自分の考えや学習のまとめを書く時間を位置付ける。まず、書き方のパターンを教え、()埋め・キーワードの使用・時数制限など条件を変えることで書く力を養う。また、互いの考えをペアや小グループで交流する時間を位置付ける。 ・朝の帯取り時間を活用して、読む力と書く力の育成に努める。低学年では、正しく読む力を身に付けるためにMIMの継続的な取り組みを行う。校舎内にもカードを掲示し、日頃から自主的に発声練習ができるようにする。中・高学年では、学年の実態に応じて、教科書や新聞社説等の資料を基に作成した視写プリントを活用したり、中学校国語科担当と連携して文章の要点を読み取る問題を載せたワークシートを活用したりする。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・自主的な家庭学習が十分でない実態と、学年×10分の家庭学習の必要性について学校だより、保護者懇談会等で周知する。また、家庭学習チャレンジハンドブックを活用し、自主学習のやり方について助言を行うとともに、月初めに回収し、担任がチェックすることで定着させる。 ・中学校の連携し、小中一貫の放課後学習教室を週2回行うことで、自学自習の習慣付けを図る。内容としては、アシストシートやCRTの過去問題等を活用し、計算や漢字等の基礎的な内容の定着を図る。
